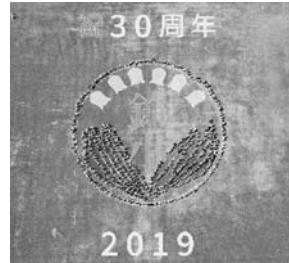


十勝教育研究



卷頭言
十勝教育研究所
所長
高橋 康伸



教育現場への期待
ちくだいKIP
代表理事
山田 共彦

わたしの授業実践
豊頃町立豊頃中学校
教諭
小泉 佳一

わたしの学級経営
広尾町立広尾小学校
教諭
保志 元輝

健やかな心と体
音更町立音更小学校
栄養教諭
向井 紘理

共に学び共に育つ
鹿追町立 笹川小学校
教諭
横田 陽子



日々徒然
幕別町立忠類小学校
教諭
松井 孝之

日々徒然
陸別町教育委員会
社会教育担当主任主査
大鳥居 仁



新たな一步

採用校長 「我が信念を語る」
昇任教頭 「我が決意を語る」
新採用教職員 「我が抱負を語る」

特集

卷頭言

十勝教育研究所
所長

高橋 康伸



十勝の教育実践を紡ぐ たての糸とよこの糸

令和2年度が何とかスタートしたと

いう感覚は、私だけではないよう思
います。新型コロナウィルスの猛威に
より、学校現場も長期間の一斉臨時休
業や卒業式・入学式等の異例の対応が
続きましたが、まだまだ不安な要素が
あるとはいえ、学校に子どもたちの笑
顔が戻ったのはうれしい限りです。

さて、教職員の大幅な世代交代が進
んでいます。ここ十勝も例外ではありません。そんな世代交代期を迎える中、今、私自身の大きな課題のひとつに、これまで十勝が織りなしてきた優れた教育実践をどう伝えていくか、ということがあります。

します。後に、第一法規出版から『十
勝野の子どもと教師』が刊行されまし
たが、この優れた教育実践は、間違
なく十勝が誇るべき大きな財産です。

そして、授業公開だけでなく、集団演

技「木野（十勝）の四季」も、実に高
い評価を受けていました。公開研究会
には、今では珍しい大樹小学校・忠類
小学校の合同研究会という形などもあ
りましたが、これらの研究会や教育実

践論文の取組は、十勝教育のたての糸
として一定の役割を担つてきましたよう
な気がします。

また、この十勝では、10月9日に開
催される「北海道国語教育研究大会十
勝・帯広大会」や11月13日に予定され
ている「北海道キヤリア教育・進路指
導研究大会十勝・池田大会」（現状で
は、中止と聞いていますが）をはじめ
め、毎年のように全道規模の研究大会
が開催されています。

今後3年間を見ても、令和3年度には
は国際理解教育、令和4年度には造形
教育と音楽教育、技術・家庭科教育、
令和5年度には学校体育と書写書道教
育が予定されているようです。その後

も、放送教育や学校図書館、へき地複
式教育があると聞いていますが、こん
なに研修の機会に恵まれている管内は
珍しいと考えています。私たちの先輩
方が教科サークル等を中心とした、

オール十勝での実践研究を大切にして
きた思いを受け止めると、これらは十
勝教育が織りなす布のよこの糸に当た
るのではないでしょうか。

そう考えたとき、中島みゆきさんの
「糸」ではありませんが、十勝の「仕
合わせ」を創ってきたのは、これらの
たての糸とよこの糸をバランスよく紡
いてきたからではないかと思うので

す。校内のたての糸はもちろん大切で
すが、サークル活動のよこの糸があつ
たからこそ、十勝ならではの布がきれ
いに織られてきたと思わずにはいられ
ません。目の前の教育改革等に追われ
る日常ですが、サークルで教育実践を
磨くとともに、これまでの十勝の優
れた実践を今一度、紐解いてみてはいか
がでしょう。

十勝教育研究所は、資料提供という
役割も担つていてますので、図書室等も
ぜひご活用ください。

特集 新たな一步

採用校長・昇任教頭・
新採用教職員の紹介

INDEX

◆ 卷頭言 十勝の教育実践を紡ぐ たての糸とよこの糸 十勝教育研究所	所長 高橋 康伸
◆ 目次	
◆ 教育現場への期待 ちくだいKIP 代表理事 山田 共彦	
◆ 特集 新たなる一步 採用校長の紹介「我が信念を語る」 昇任教頭の紹介「我が決意を語る」 新採用教職員の紹介「我が抱負を語る」	
◆ 連載 わたしの授業実践 彫刻刀を使った木彫の指導 豊頃町立豊頃中学校 教諭 小泉 佳一	
◆ 連載 わたしの学級経営 1000時間ある授業の中で 子どもを育てる 広尾町立広尾小学校 教諭 保志 元輝	
◆ 連載 健やかな心と体 給食は食べる教科書 音更町立音更小学校 栄養教諭 向井 紘理	
◆ 教育情報 十勝教育研究所の組織・業務内容 Facebook・HP紹介 共同研究概要 協力員研究概要	
◆ 編集後記 幕別町立忠類小学校 教諭 陸別町教育委員会 社会教育担当主任主査 大鳥居 仁	
◆ 学校めぐり 音更町立鈴蘭小学校 校長 橋田 孔	

教育現場への期待



ちくだい KIP 代表理事 山田 共彦さん

KIPは、英語で「蹴上がり」という意味だ。体操選手が、最初の壁として直面する技の名前である。何度も練習し、初めて成功するその瞬間の想いや感情を広く伝えたいと付けられた。2015年に帯広畜産大学の村田浩一郎准教授と卒業生の山田共彦さんが共同で設立し、十勝管内で子どもの体操教室を運営する「ちくだいKIP」。

今回は、代理理事の山田さんに、御自身の教育への思いや教育現場への期待について話を伺った。

「子どもたちの運動に対するポジティブな感情を育ててあげたいという思いをもつて、日々指導に当たっています。体操の技ができたらもちろんすばらしいけれど、できなくても運動は楽しめるということ。そして、それが次につながっていくことを、無意識に体感してほしいです。」と山田さんは語る。

ちくだいKIPは、体操に笑顔で取

り組めることを重視している。ただし、できなくてもいいというわけではない。村田准教授はオリンピック強化スタッフに名を連ねるほどの専門家であり、体操選手として活躍したスタッフも多い。スタッフは、スキルだけではなく運動の楽しさを知つてほしいという思いをもちながら、子どもたちの指導に当たっている。

ちくだいKIPは、子どもたちの体操教室以外にも、障がい者や高齢者のための教室を開催するなど、活動の幅が広がってきてている。山田さんは、体操をキーワードに、地域のコミュニティを活性化し、将来的には、その境界線をぼやかし、いわゆる「ごちやまぜ」のコミュニティにしていきたいという理想をもっている。

「様々な年代や境遇の方たちと自然と触れ合う機会があることで、多様性を肌で感じ、存在をしっかりと認め合えるようになってほしいです。困っている

子どもが多様性を肌で感じ、存在を認め合える ようになるためのコミュニティを創りたい。

「子どもたちは、個性がはつきり違っていて、とても面白いし、人間らしいと感じています。大人になると、行動の目的や損得を重視して打算的になり、素直な感情や衝動を抑えるようになります。それは、大人になる上で必要なことです。しかし、素直な部分ができるだけ残して大人になつてほしいと思つて活動しています。」と話す。

高齢者に優しく接することも、街を歩く障がい者に普通に接することも、全ては『知る』ことから始まります。そして、その『知る』は、体験を伴つた『生の』ものがベストです。そういったことはなかなか学校だけでは学びきれないで、地域のコミュニティを創つて、子どもたちに『生の』体験してほしいという願いをもつています。」と山田さんは語つた。

山田さんは、日々子どもたちを指導していく、どのように感じているのだろうか。

「子どもたちは、個性がはつきり違つていて、とても面白いし、人間らしいと感じています。大人になると、行動の目的や損得を重視して打算的になり、素直な感情や衝動を抑えるようになります。それは、大人になる上で必要なことです。しかし、素直な部分ができるだけ残して大人になつてほしいと思つて活動しています。」と話す。

ちくだいKIPが目指す理念は、学習指導や学級での人間関係づくりにとって、大いに参考になるのではないだろうか。そして、教育や地域づくりに熱い思いをもつて子どもと関わることが成果につながることを、山田さんと話して強く感じた。

「運動、すなわち学校における体育は、身体を動かして心身ともに健康を増進させることができることが根本的な目的だと考えています。そのため必要なのは評価のための『できる・できない』ではなく、『楽しいからまた運動したい』というポジティブな感情を育むことです。個性豊かな子どもたちを一人一人見つめて、苦手意識をもたないよう工夫して楽しませてあげてほしいと思います。」と山田さんは熱い思いで締めくくつた。



上：熱い思いを語ってくださった代表の山田さん。
下：スタッフの皆さん。元体操選手など様々な経歴の方が指導に当たっている。

ちくだいKIPは、体操教室以外にも、障がいのある子どもたちや大人・高齢者のための教室など、体操をキーワードとして地域のコミュニティづくりに力を入れている。

一般社団法人 ちくだいKIP 問い合わせ先

- ◆ 電話／メール 080-9355-7295 / info@chikudaikip.com 担当 山田 共彦さん
- ◆ ホームページ <https://chikudaikip.com/>



わたしの 授業実践

～彫刻刀を使った

木彫の指導～

豊頃町立豊頃中学校

教諭 小泉佳一

■はじめに

私が美術科で重点的に目標としていることは、工芸教材の充実です。工芸とあっても多種多様なものがありますが、美術や図工の時数が少なくなっている現在、完成度と指導効率を考え、木材工芸に重点を置いています。

表現活動であるもの作りが苦手な子どもは、「センスがないから」「不器用だから」と言い訳をします。しかし、私は美術の表現活動の大部分が技術（テクニック）だと考えています。

スポーツは努力をして技術を身に付けて、練習をして技術を身に付けなければ良い作品はできません。これは絵画にも同様で、鉛筆や筆の使用方法、絵道具の溶き方、絵の具の乗せ方等多くの技術を必要とします。

近年、世界から注目されている日本の伝統工芸では、木材を利用したものが多くあり、そのほとんどが彫刻刀などの刃物を使います。木材だけでなく金属においても刃物が必要なものがた

くさんあります。そのことからも、もとの作りにおいて、彫刻刀の使い方や管理の知識と技術は避けては通れないものだと考えます。

そこで、今回は、木彫の基礎について取り上げます。具体的に何を作るかは制作学年や時期、制作環境などを考えてながら決める良いと思います。

■彫刻刀について

私は、彫刻刀の使用に関しては時間を掛けて指導しています。それは、けがが付きまとうからです。丁寧に使用方法や危険性を説明しても、2・3年に一人程度は手を切つて保健室へ行く子どもがいます。普段の生活から刃物を扱う機会が少なくなり、カッターナイフの持込みが禁止の学校も多くなっています。社会人になってから困ることがないよう、刃物の危険性について、正しい知識を身に付けることが必要だと思っています。「切れない刃物は危ない」ことを伝え、どんな刃物も切れないとには必要以上の力を入れるので危険性が増すことを理解さ

(1) 持ち方

せます。

現在、十勝の小学校は版画の実践が

充実しているため、ほとんどの子ども

が小学校のときに彫刻刀を購入して

持っています。教材用として現在販売

されている彫刻刀は安全性を優先して

いるため、使いやすさという点では、

少々難があります。さらに、版画には

向いていますが、木彫にはいくつかの

点で不便です。

昔の彫刻刀は持ち手の部分の断面が

楕円形をしているのにに対し、現在のも

がが付きまとうからです。丁寧に使

用方法や危険性を説明しても、2・3年

に一人程度は手を切つて保健室へ行く

子どもがいます。普段の生活から刃物

を扱う機会が少なくなり、カッターナ

イフの持込みが禁止の学校も多くなっ

てきています。社会人になってから困

ることがないよう、刃物の危険性に

ついて、正しい知識を身に付けること

が必要だと思っています。「切れない

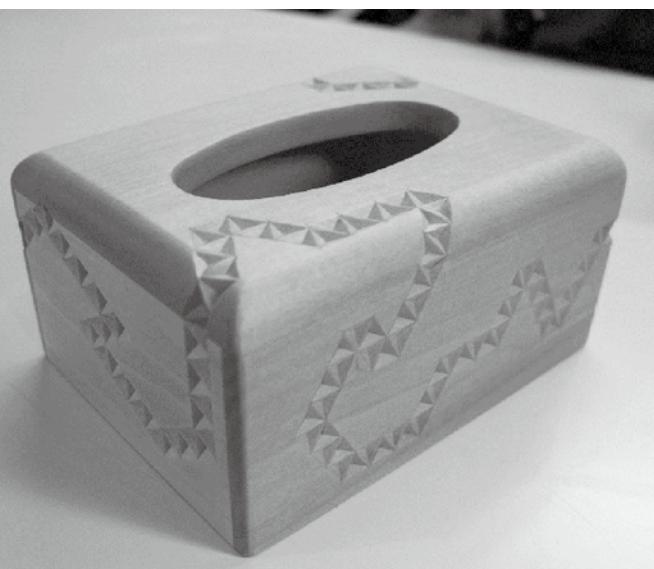
刃物は危ない」ことを伝え、どんな刃

物も切れないとには必要以上の力を

入れるので危険性が増すことを理解さ

基礎を身に付けることで

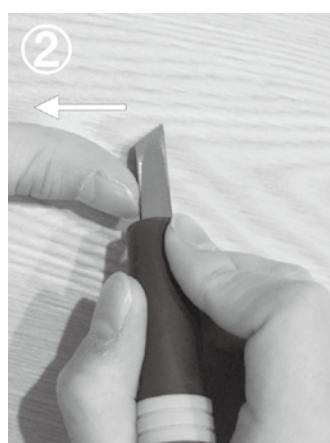
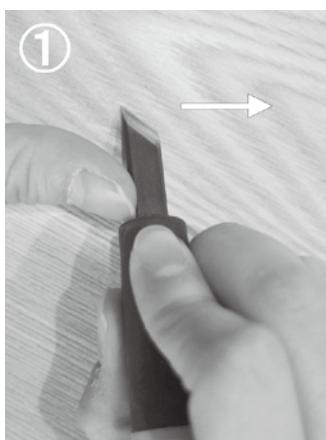
多様な表現ができる



のは指の位置が固定され、持ち方を変えることが難しい形になっています。

版画のように前に押して彫るだけの用途としては良いかもしれません、木彫となると木目によって彫り進む方向を変えたり、角度を自由に変えたりする必要が出てきます。子どもが持つている彫刻刀では彫る方向を微調整することが難しい構造になっています。どうしても上手に使えない子どもには、学校で用意した持ち手が橢円形の彫刻刀を使ってもらうこともあります。

長年、私が取り組んでいる教材は印刀を一本のみしか使用させないので、それを例に説明します。



側に指の先を付けます。この場合、彫刻刀の進む方向は右です。彫刻刀を持つている右手は刃の進む方向や角度を調整します。刃を進ませるのは左の親指です。この方法では左の親指は刃から離れる事はないので手を切ることはありません。

(2) 練習

練習には時間を掛けます。できれば、作品制作の材料と同じ樹種の練習の板を用意し、彫らせます。

練習の前に、必ず子どもの目の前で手本を見せます。机間巡回の要領で2～4人の前で実際に彫って見せます。

最初から全てのコツを指導するのではなく、子ども自身が考えて彫れるようになります。さらに、段階を追ってきれいに彫れるコツを板書を使いながら説明をしていきます。練習中に、子どもが使っている彫刻刀を使い、練習板に彫って見せることがあります。

(3) 素材

②は刃の裏面を上にして使用する方法です。この場合は刃の進む方向は左です。この時も指の位置は基本①と同じです。ただし、左の親指の役割が変わります。彫刻刀を持っている右手で彫り進め、左の親指は切りたい箇所までのブレーキの役割をします。基本①と同様に左の親指は刃から離れません。このことから、彫刻刀の刃が変な方向へ行かなくなり、必然的にけがをしなくなります。基本②は慣れるまで時間がかかりますが、きれいに木を彫るにはこの両方を身に付けることが必要です。

樹種には特に気を使います。せっかく彫刻刀を上手に使っても、素材が良くなれば意味がありません。木彫に向いている樹種はカツラ、ホウが適しています。カツラは高価で、半加工の教材は少なく、ほぼホウしかありません。ホウは多少色が濃いものがありますが、柔らかさと緻密さは木彫にとっても適しています。それ以外の樹種であります。薬指と小指は材料を押さえるのに使います。この時、左の親指は刃の左

(4) 研ぎ

彫刻刀の切れ味を維持するには、研ぎの技術が必要です。安全に作業を進めるのにも、刃物は切れ味のよさが不可欠です。研ぎは奥が深く、何度も経験を積まないとうまくなりません。研ぎの道具もいろいろあり、その特徴を理解していないと、かえって切れなくなってしまいます。私は水を使いながら砥石で研ぐ方法と、乾式のバフを利用した方法とを併用しています。子どもは、よく切れる彫刻刀を使うことに慣れると、切れ味が落ちることにも敏感になります。切れ味をすぐに戻せるように、時間をかけずに研ぐ技術を教員が身に付けることが必要です。

■おわりに

木彫の楽しさは、美しい木目を生かしながら彫刻刀で木の表面に変化をつけ、立体的にしていくことです。その楽しさを多くの子どもに知つてもらえるように今後も努力したいと思っています。

①は刃の表面を上にして、使用する方法です。鉛筆を持つように右手の親指・人差し指・中指の三本で持ちます。薬指と小指は材料を押さえるのに使います。この時、左の親指は刃の左

「木彫の楽しさは、彫刻刀で木目を生かし立体的にすること」



わたしの 学級経営

～1000時間ある
授業の中で子どもを育てる～

広尾町立広尾小学校

教諭 保志元輝

■はじめに

「授業で子どもは変わる。有り難いことに授業は毎日ある。」

これは、十数年前、私が教育実習生の時に得た有り難い言葉です。私は教員生活をスタートさせて、今年で12年目になりました。年を重ね、できることも増えましたが、至らないことも多々あり、猛省の日々です。目の前の子どもたちの成長を願って、試行錯誤の繰り返しだけでなく、大切にしている信念があります。それは「学級経営は授業で行う」というものです。拙い実践ではありますが、紹介させていただきまます。

■授業の土台は学級経営

教員という職業に就く以上、私たちは教えるプロでなければいけません。学校生活の中で一番のウエイトを占めているのは何なのでしょうか。子どもたちに教えないではないものは何なのでしょうか。年間行事の数は限られていますが（特別活動をおろそかにしている訳ではありません）、授業は毎日あり、年間で1000時間あります

す。教員がこの授業の手を抜いて、子どもたちにとつて価値のないものになってしまったらどうでしょう。子どもたちにとって学校は面白くない場所になってしまいませんか。

私の学級経営方針は、

- (1) 子ども一人一人の個性を大切にしながら、主体的に活動しようとする態度を育てる。
- (2) 基礎基本の定着を図る。また、「対話」を授業の芯に据え、友達と学び合うよさを感じられる授業づくりに努める。
- (3) 最後まで粘り強く取り組み、失敗を恐れずにはじめ挑戦できる子どもを育てる。
- (4) 基本的生活習慣を身に付け、「挨拶」「返事」「後始末」「時間を守る」ができる子どもを育てる。
- (5) 仲間を大切にする態度を育て、互いの違いやよさを認め合い、助け合える学級を目指す。

というものです。

授業をつくっていくのは子どもたちです。授業が終わった後に「分かった！」「できた！」といった達成感や、



「何で？」「次は？」といつた新たな問い合わせが生まれるような授業を行おうと日々努力しています。元々、子どもたちは個性豊かで多様な存在だと私は思います。しかし、良い授業がいつでも成立するかと言えばそうではありません。より良い集団であるために、教師側が意図的・計画的に学級経営を進めいかなくてはならないと感じています。

「分かった！」 「できた！」 「何で？」

で学級をつなげる

「大丈夫！」子どもたちが安心して学習できる学級づくりを

（丁寧な言葉で話せる学級）を目指し
（1） 学級経営で
大切にしていること

次に、私の学級経営のうち、大切にしていることを3点に絞って紹介させていただきます。

（1）学習環境の整備

子どもたちが意欲的に生活するためには学習環境の整備が不可欠です。当然そこには担任の個性も出てきますが、「整っていること」「子どもの成長に合わせてマイナーチェンジしていくこと」が大事かと思います。また、自らの行動や言動にも留意しています。



■学級経営で

大切にしていること

気に入始める、中・高学年ではこのようなことが多くなると思います。

このような状態を打破し、どの子も意欲的に発表する環境をつくることは学級経営の根本に関わってくると考えています。「クラスの仲が良いこと」はもちろんのこと、「挨拶」や「ルールの確立」、「間違っても大丈夫」「級友の頑張りを認め合える」等の雰囲気づくりをすることで、子どもたちが心豊かに学びをつなげることができる学習環境になっていくのではないかと考えています。

ているのに、それを指導している担任の言葉遣いがひどければ、指導の信ぴょう性が問われます。子どもの信頼関係も失われかねません。社会で生きる大人として、自らの行動・言動自体も学習環境の一つと捉え、日々取り組んでいます。

（2）支持的風土の醸成

指名しても、すぐに発表できない子どもがいます。学力的な要素も考えられますが、自分の考えに自信をもてないのかもしれません。集団の中で自己肯定感の低い子どもが陥りやすい状態にあるとも考えられます。周囲の目を

気にし始めると、中・高学年ではこのようなことが多くなると思います。

評価と言われると（2）の印象が強いようになりますが（評価のための評価に陥る）、主は（1）にあるように思えます。

評価については、学級経営を行う上で、日常実践を改善し、次につなげていくために大切にしなければいけないことだと感じます。私自身学んでいないのですが、「教師の学び方」（澤井陽介 東洋館出版社 二〇一九）の中には、納得解があつたので紹介させていただきます。

評価の目的は二つある。

（1）次の指導に生かすため

→子どもの学力を高めるために学習状況を把握し、次の指導に生かす。（授業改善）

（2）記録に残すため

→子どもたちの学習成果を記録する。

（3） 指導と評価の一体化

評価については、学級経営を行う上で、日常実践を改善し、次につなげていくために大切にしなければいけないことだと感じます。私自身学んでいるのだと思います。

■おわりに

「今日の勉強楽しかった！」この一言を聞くだけで体中に活力がみなぎります。優れた実践が世の中にはたくさんあります。目の前の子どもたちの成長や未来のために、今後も学び続ける教員として、自己研さんしていく所存です。



教師が自らのねらいに応じて自分の授業や学校生活を振り返り、学習や指導の改善に生かしていく視点が大切になるのだと思います。

食は身体を作る、食は人とのつながりを作る、食を通して文化やマナーを学ぶ。食は生きる力を育むものなので、お腹を満たすための給食ではなく、給食は食べる教科書として捉えた食育を心掛けています。

■音更小学校の実践

①おとふけ給食

音更町では、給食を通して音更町の旬の食材を知ることで、郷土への関心を高めたり、理解を深めたりする目的で、地場産物を献立に取り入れる「おとふけ給食」を行っています。給食だよりへの掲載、説明資料の配布、昼の校内放送での説明などを通して周知しています。

②3R事業

音更町では、平成30年度から「おとふけ学校給食フードリサイクルプロジェクト」という事業を行っています。給食の調理くずと食べ残しからできた肥料を使って農産物を作り、給食に取り入れています。子どもたちは家庭科などの授業を通して、栄養や資源の大切さ、作り手の思いなどを知ることで食べることの大切さを学習しています。

③日々の小さな取組

町内全体で食育に取り組んでおり、恵まれた環

境で食育をしています。自校式給食のため、子どもたちが気軽に調理室を見学し、直接調理員さんにお礼を伝えることができます。継続した食育を心掛け、小さな食育の積み重ねを意識しています。毎日各学級を巡回し、喫食状況の確認、献立の説明・マナー指導、時には食育クイズなどを行っています。給食室前のホワイトボードには、毎日の献立名や食材のイラスト、子どもたちに向けたメッセージを記載しています。

■今年度の取組

作り手を思いやって後片付けまで丁寧に行えるように、「ご飯粒を一粒も食器に残さないくらい丁寧な片付け」を教職員に伝え、協力していただいているます。また、下膳時の配置を工夫しました。実物の写真で示し、子どもたちが片付けに戸惑わないよう試行錯誤しながら進めているところです。

今年度は給食メモを作って、給食時間に子どもたちや教職員に少しでも食の情報をお伝えいきたいと考えています。

音更町立
音更小学校

栄養教諭
向井 純理

務に追われる日々ですが、職員室と調理室のコミュニティを生かした食育に取り組みたいと思います。また、小さな食育アイデアをいつでも募集しています。

健やかな心と体

～給食は食べる教科書～

共に学び共に育つ

～一人一人が同じように大切にされる交流学級の中で～

■安心して違いを認め合い、共に育つ

学校の強みに、多様な在り方を認め合う関係性をつくれることがあると思う。人が自他に優劣をつけたくなる心理の根本には、「優位に立たないと認められないかも」という不安があるのではないか。だから「一人一人の違いに優劣などなく、皆同じように尊い存在なのだ」と実感できる教室をつくりたい。

■大らかで温かい

つながりをつくる

子どもたちの間でもめごとが起きた時、「何か分かってほしいことがあるんじゃないかな」という問い合わせから子どもたちと話を始めるようになっている。私の仕事は、注意や説教ではなく、当事者とその周囲の子どもたちとの仲介だ。子どもの伝え方が誤解を生みそうだと思った時には、「こういうこと？」と周囲の子たちと一緒に聞く。「それを伝えたかったんだね。みんなもそんな気持ちになったこと、ある？」「理解してあげてね」と一方的に言うのは避け、子どもたちが「行動の仕方は自分とは違うけど、思いは同じなんだな」と気付けると信じ、頼る。



鹿追町立
 笹川小学校

教諭
横田 陽子

また、寛容さを育てることも意識している。例えば授業中、離席して学ぶ場面をつくるのは、座っていられない子への配慮であると同時に、他の子の「座れないのはダメなこと」という価値を緩めるためでもある。「ダメ」が多いと、そこになじめず、居場所を失う子が出てくる。寛容な集団の中では、様々な個性をもつ子どもたちが、互いの事情をくみつつ、安心できる居場所を見付けやすくなるだろう。

これらの実践では、特別支援学級担任との信頼関係が不可欠だ。役割は違えど、一緒に全体を見て、一緒に個を見る。放課後、大いに子どもたちのことを語り、それぞれのできることを考える。教員がつながることが、子どもをつなぐ大きな力になる。

■ 笹川小学校では

今年度の笹川小学校では、チームで行う特別支援教育の充実が求められており、研修の必要性も高まっている。子どもの数の少ない本校では、毎日全ての職員が全ての子どもに関わることができる。その強みを生かし、目の前の子どもたちにとって、より良い支援とは何なのか、皆で摸索し続けたい。

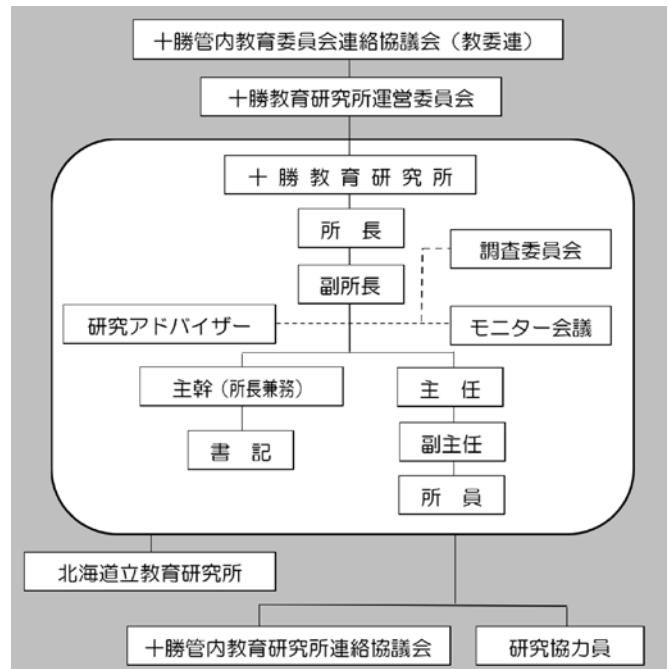
教育情報

組織

◆運営の基本方針・機構図

十勝教育研究所は十勝管内教育委員会連絡協議会によって設置されている公的な研究機関です。

各市町村教育委員会、十勝教育局並びに教育関係機関、十勝教育研修センターとの密接な連携を図り、その中心的な業務である調査研究、研修活動、資料提供等を通して、十勝管内の教育の充実、発展に尽くすことを基本方針としております。



◆令和2年度 十勝教育研究所 職員



杉澤 諭 【協力員研究】	野村 知未 《共同研究》	大橋 一博 所員	齊藤 雅彦 《共同研究》
清水 悅子 書記	高橋 康伸 所長	秦 公一 副所長	
金子 信隆 主任			

◆ご挨拶

お世話になりました

前主任所員 角田 裕司 (幕別町立幕別中学校)
前所員 西村 弦 (音更町立下音更小学校)

よろしくお願ひいたします

所 員 杉澤 諭 (幕別町立幕別小学校)
所 員 野村 知未 (幕別町立幕別中学校)



十勝教育研究所

業務内容

◇研究機関としての研究

- ・十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究 (26・27ページ参照)
- ・十勝教育研究所 協力員研究 (28・29ページ参照)

◇講演会・研修会の開催

- ・十勝管内教育研究所所員研修会
- ・ミニ道研
- ・教育講演会
- ・十勝教育研究所研究発表大会

▼ 新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、
7月に開催予定でした「十勝管内教育研究所所員研修会」及び「教育講演会」、「ミニ道研」につきましては、今年度中止となりました。

◇関係機関との連携

- ・北海道教育研究所連盟第17次共同研究
- ・全国研究所連盟、北海道教育研究所連盟、道東・管内研究所連絡協議会との連携

◇教育研究相談

「学習指導資料コーナー」

管内小・中学校の研究紀要、各研究所の副読本や家庭学習の手引きなどが閲覧できます。また、教育関係雑誌のバックナンバーも配架しています。

「閲覧コーナー」

【十勝教育研究所発刊物】

- * 研究紀要 * 十勝の子どもの学力 * 共同研究・協力員研究ダイジェスト版
- * 広報誌「十勝教育研究」

【教育関係雑誌】

- * 『初等教育資料』 * 『中等教育資料』
- * 『指導と評価』 * 『道徳と特別活動』
- * 『授業力 & 学級経営力』

「教科書コーナー」

図書室内には小・中・高等学校の各教科の教科書を全出版社分取りそろえておりますので、内容を比べてみることもできます。



「研究会・お知らせコーナー」

管内で開催される研究会の日程や教育研究サークル・北海道立教育研究所等の情報を掲示しています。

教育情報

刊行物

◇広報誌「十勝教育研究」

広報誌「十勝教育研究」は、教育の今日的諸課題に関する研究や実践などの発表・交流の場です。発刊は年3回を予定しております。

昨年度から、より多くの皆様に御愛読いただけるようレイアウトを一新しました。今年度も分かりやすく充実した内容となるように心掛け、編集に努めてまいります。



【十勝教育研究】

－学校めぐり－

全ての号で連載します。その学校の特色ある取組を具体的な子どもの姿を交えながら写真とともに掲載します。昨年度から裏表紙で2色刷りとなり、より見やすくなりました。

－教育情報－

当研究所で進める研究（共同研究・協力員研究）や、研究会・発表大会などを中心に十勝管内の教育情報を紹介します。

－共に学び共に育つ－

年2回の連載です。「インクルーシブ教育」の視点に立った実践や、教材教具について掲載します。特別支援担任の先生だけではなく、普通学級担当の先生にも紹介をしていただきます。

－特集－

1月号と3月号に掲載します。話題となっているキーワード、教育現場で求められている指導方法などを分かりやすく解説します。また特集に関わる十勝管内の実践も紹介します。

－わたしの学級経営－

全ての号で連載します。「学級通信のコツ」「家庭学習の進め方」など学級経営を支えるテーマのひとつに視点を当て、管内の先生方に具体的な実践を紹介していただきます。

－健やかな心と体－

年2回の連載です。子どもたちが学びに向かう土台は「心」と「体」の健康です。養護教諭・栄養教諭の皆様に子どもたちへの関わり方や学校全体での取組を紹介していただきます。

－紹介・挨拶－

6月号では、採用校長・昇任教頭・新採用教職員の皆様からの御挨拶を紹介します。3月号では、退職を迎える皆様からのメッセージと、今年度で閉校となる学校を紹介します。

－わたしの授業実践－

全ての号で連載します。「板書のポイント」「ICTの活用」など、授業実践をより高めるテーマのひとつに視点を当て、管内の先生方に具体的な実践を紹介していただきます。

－日々徒然－

全ての号でお二人ずつ紹介します。日々の子どもたちとの関わりやプライベートなどで感じた思いを、様々な立場から徒然なるままに執筆していただきます。

◇学習指導資料「十勝の子どもの学力」

教研式学力検査CRTによる十勝の子どもたちの学習状況や各教科における指導の改善について掲載しています。

各学校における学習指導の改善・充実の基礎的な資料として御活用ください。

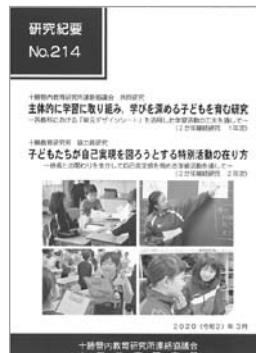
◇研究紀要・ダイジェスト版

十勝教育研究所では、毎年、研究紀要・ダイジェスト版を発行し、共同員研究・協力員研究の様子を管内の先生方にお知らせしています。

ダイジェスト版は十勝管内全ての先生方に、研究紀要是学校に1冊配布しております。



【十勝の子どもの学力】



【研究紀要No.214】



【共同研究ダイジェスト版】



【協力員研究ダイジェスト版】

十勝教育研究所

Facebook & HP

十勝教育研究所では、Webでの情報発信を行っています。



Facebookのアプリ内やインターネットブラウザから、「十勝教育研究所」で検索してください。

フォローしていただけすると、投稿内容が表示されます。



十勝教育研究所の運営方針、組織図、沿革等を掲載。

各講演会や研究大会の案内・
参加報告等、様々な情報を発信。

十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究及び
十勝教育研究所協力員研究の概要について紹介。

十勝教育研究所が所蔵する
研究紀要等の一覧を掲載。

ホーム お知らせ 十勝教育研究所について 調査・研究 カリキュラム支援センター 所蔵資料 研究大会一覧 FACEBOOKページ



十勝教育研究所



インターネットブラウザから「十勝教育研究所」と検索していただき、左のQRコードを読み込んでください。

調査・研究に関わって、先生方に御利用していただけそうな資料であったり、年間3回発行しています広報誌「十勝教育研究」の記事を掲載したりしています。

ぜひ、御活用ください。

お知らせ
広報誌「十勝教育研究」334号を発行しました。

3月 17日

広報誌「十勝教育研究」333号を発行しました。

12月 03日

CRTの申込みについて（町村教育委員会及び十勝管内町村小中学校担当者様）

9月 24日



新着図書情報

新着図書の情報はトップページの「ブクログ」から確認できます。



<https://www.tokyoken.net/>

主体的な学びの姿とは

学んだ手応えを積み重ねるイメージ

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。



深い学びの姿とは

見方・考え方を働かせるイメージ

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

対話的な学びの姿とは

考えが広がり深まるイメージ

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。



単元デザイン

目指す資質・能力の育成に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点で、単元や題材など内容や時間のまとまりを構想する。

見方・考え方や子どもの姿と教師の手立てを明確に

学習活動の工夫

見 通 し	単元・学習のはじめに身に付けたい力を子どもと共有
探 求	見方・考え方を働かせる発問や場面設定

振り返り

子どもの言葉で表現して振り返る場面設定

主体的に学習に取り組み、学びを深める子ども

Key word

主体的・対話的で深い学び
見方・考え方
単元デザイン 学習活動の工夫

共同研究

〈研究主題〉

主体的に学習に取り組み、学びを深める子どもを育む研究

～各教科における見方・考え方を働きかせた、単元デザインや学習活動の工夫を通して～

(2か年継続研究 2年次)

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果等において、課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる子どもの割合が低く、教師と子どもの認識の差が指摘されています。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、単元をデザインしたり、学習活動の工夫をしたりすることで、主体的に学習に取り組み、学びを深める子どもを育む研究を進めます。

研究の仮説

見方・考え方や子どもの姿と手立てを明確にした単元デザインをしたり、見通す・探究する・振り返る場面での学習活動の工夫をしたりすることで、主体的に学習に取り組み、学びを深める子どもを育むことができるだろう。

研究の内容

(1) 単元デザイン 各教科の見方・考え方を単元に合わせて明確化

具体的な子どもの姿と教師の手立てをイメージした指導の明確化

(2) 学習活動の工夫 意欲をもつことができる見通しの工夫

見方・考え方を働きかせることができる探究の工夫

学んだことを表現することができる振り返りの工夫

見方・考え方

子どもの姿と手立て

主
対
深

単元デザイン

深

学習活動の工夫

意欲をもつ

見方・考え方を働きかせる

表現する

見通す

探究する

振り返る

主体的に学習に取り組み、
学びを深める子ども

思考ツールを活用した指導の工夫

思考ツールは、収集した情報を処理したり、再構成したりして、関係や傾向を見いだすための枠組みのことです。

本研究では、右の2つの場面における思考ツールの活用に着目して研究を進める予定です。

思考ツールの活用により、自己の考えの変容を認識し、自己と他者の考えを整理し、他者との違いを知ることで、自己の思いがより明確になる**自己の客観視**を目指します。



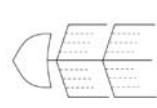
より良く生きようとする力が高まる

道徳科での思考ツールの活用場面

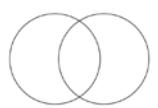
- ① 自分との関わりで振り返って見つめ直す場面
- ② 多面的・多角的に考え、他者との交流により自己の思いが明確になる場面



クラゲチャート



フィッシュボーン



ベン図

テーマについての
様々な考え方を理由
付ける

自分の考えを関連
付けて、変化に気
付く

物事を比較しなが
ら、共通点・相違
点を見付ける

【自己の客観視のための思考ツールの例】

ソーシャルスキルを活用した指導の工夫

ソーシャルスキルは、仲間関係を円滑に進め、維持していくための技術のことです。

本研究では、様々な実践の中から、右のような役割演技や日常生活の振り返りに着目して研究を進める予定です。

ソーシャルスキルを身に付けるための役割演技により、実際の場面の体験することで、友達との関わりの中で活用できるようになるのではないでしょうか。そして、日常生活の振り返りにより、自分の強みや感情のコントロールの特徴を知ることで、自己に合った関わり方を見付け、**成功体験の積み重ね**を目指します。



自分のよさや可能性に気付く

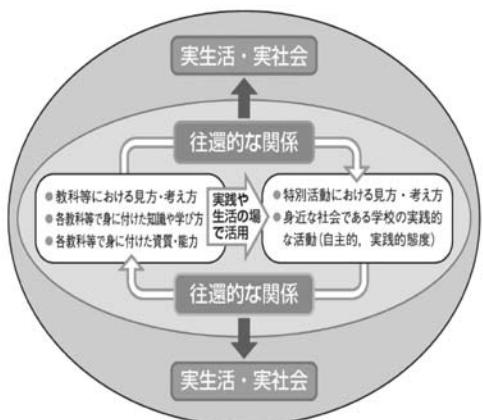
特別活動でのソーシャルスキルの活用場面

- ① 学校生活上で想定される場面を役割演技で体験し、どのように自己の気持ちを整え、行動するのかについて学ぶこと。
- ② 日常生活を振り返り、自分のできること、強み、気持ちの変化の特徴などを明確にすること。

3つの話し方シナリオ	トラブルになりそうな事例について3つの話し方による違いを役割演技で体験し、関わり方を学ぶ。
自分の気持ちを知る	ネガティブになったときの自分の心の変化をマッピングして、可視化する。

【成功体験を積み重ねるためのソーシャルスキルの例】

学校生活全般



国立教育政策研究所「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編」平成30年12月より

より良く生きようとする力が高まる

自分のよさや可能性に気付く



しなやかな心の育成

Key word

前向きに取り組む 意欲的に挑戦
自己の客観視 成功体験の積み重ね
思考ツール ソーシャルスキル

協力員 研究

〈研究主題〉

子どもたちにしなやかな心を育む研究

～道徳科と特別活動における指導の工夫を通して～

(2か年継続研究 1年次)

我が国と諸外国の若者の意識に関する調査や全国学力・学習状況調査の質問紙調査を見ると、子どもたちは、うまくいかないことや失敗を恐れずに挑戦することに対して課題があると考えられます。そこで、道徳科における思考ツールや、特別活動におけるソーシャルスキルを活用した指導の工夫を行うことで、より良く生きる力が高まり、自分のよさや可能性に気付くことができると考えました。子どもたちが、これらの学びを学校生活全般で生かし、前向きに取り組もうとしたり、意欲的に挑戦しようとしたりする「しなやかな心」を育む研究を進めます。

研究の仮説

1 道徳科において、思考ツールを活用した指導の工夫により、自己を客観視することを通して、人間としてより良く生きようとする力が高まり、どのようなことにも前向きに取り組もうとする心が育まれるだろう。

2 特別活動において、ソーシャルスキルの指導の工夫により、成功体験を重ねることを通して、自分のよさや可能性に気付くことで、どのようなことにも意欲的に挑戦しようとする心が育まれるだろう。

研究の内容

1 道徳科における思考ツールを活用した指導の工夫

2 特別活動におけるソーシャルスキルを活用した指導の工夫

しなやかな心

どのようなことにも
前向きに取り組もうとする心

どのようなことにも
意欲的に取り組もうとする心

学校生活全般

より良く生きようとする力が高まる

自分のよさや可能性に気付く

自己の客観視

成功体験の積み重ね

〈研究内容1〉
思考ツールを活用した指導の工夫

〈研究内容2〉
ソーシャルスキルを活用した指導の工夫

道徳科

特別活動

編集後記

担当のオススメ本



「ついていい嘘とついちゃいけない嘘はどう違うの？」など、大人でも答えるのが難しいと感じる質問が載っています。家族との話題や、道徳の授業、学級活動など、様々な場面で活躍しそうな話題の本です。

「答えのない道徳の時間 どう解く？」

文／やまざき ひろし

絵／きむら よう

にさわだいら はるひと

ポプラ社

担当から

新型コロナウィルス感染症の拡大により、緊急事態宣言が出され、学校の休校が続きました。教育活動が例年通りに行われないため、改めて今年度の計画を見直している学校も多いのではないかでしょうか。

そのような中ですが、十勝教育研究所の今年度の体制が整いました。研究所では、その年のテーマカラーを決め、様々な刊行物に使用しています。今年度は、「れんが色」を採用しました。れんが色である茶色は、植物を育む大地の色であるため、人間にとっても支えの色であるといわれています。また、明治時代に文明開化でれんがの建物が建てられるようになって誕生した、比較的新しい色名です。文明開化で新しいものを取り入れたように、十勝教育研究所もアンテナを高くして、更に工夫した教育実践や価値ある情報の提供ができるように、そして十勝の教育の支えとなる存在となれるよう、今年度も尽力していきます。

次号予告

特集

学習評価の改善と指導の充実

広報誌334号では、「今、求められる学習評価」と題し、新学習指導要領における評価について特集を行いました。次号では、授業を行う上でのポイントと合わせて解説しながら、実践例を紹介します。

◇巻頭言 ◇教育現場への期待

◇わたしの授業実践 ◇わたしの学級経営 ◇研究所めぐり

◇健やかな心と体 ◇教育情報 ◇日々徒然 ◇学校めぐり

発行所

十勝教育研究所

〒089-0531

北海道中川郡幕別町札内曉町290番地の2

TEL 0155-56-2331

FAX 0155-56-4260

印刷所

株式会社アド・プリント

北海道帯広市東3条南8丁目17番地

日々徒然

何気ない出来事に心を寄せて

温泉で気付く

幕別町立忠類小学校

教諭 松井孝之



最近、サウナーや熱波師という言葉が聞かれるよう、銭湯・温泉ブームがきていると思う。私も温泉、特にスーパー銭湯が好きだ。サウナに10分間入った後に水風呂に入り、頭の中を真っ白にするのが大好きである。リラックスした状態で、仕事のことや普段の何気ないことに思いを巡らせてみると、意外と新しい気付きがあるものである。また、そこで出会った人と話すと、自然と会話も弾んでしまう。

話は変わるが、日々の仕事の中で私が大事にしていることがある。当たり前だと思われるかもしれないが、それは「子どもたちの思い」である。では、子どもたちの思いを聞くためにどうすればよいのか。一人一人考え方は違うし、常に変化する。私は「普段の会話や関わり合いの中で、子どもたちが自然に話せること」が必要であると考えている。そのため、「一人一人の思いを授業の中だけではなく、休み時間中もできるだけ交流したい」と思っている。そして、何かを決めるときには、「子どもたちの声を大切にし、「みんなで考え、自分たちで創り上げた」という経験を大事にしていこうと日々考えている。

私にとってリラックスできる場が温泉であるように、子どもたちが自分たちの思いを自然体で表現できる場の一つが学校であるための工夫をこれからも考え続けたいと思う。そして、私もまた温泉に行って、頭を空っぽにして新しい発見をしていきたい。

新型コロナウイルスと 息子のストレス

陸別町教育委員会

社会教育担当 主任主査 大鳥居仁



北海道では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、小中学校は2月27日から臨時休業となりました。4月からようやく学校が再開と思いまして、感染拡大の第2波が襲い、5月末まで再び学校が休業となりました。

我が家には高校に入学したばかりの娘と小学校4学年になった息子がいます。こうした環境の変化に対して、小学生の息子の方は口にはしませんが戸惑いがあるようです。

子どもたちはそれぞれ、学校での先生の前での振る舞いと、家庭での親の前での振る舞いが異なります。学校でストレスをためて家庭で発散する子もいれば、その逆の子もいます。息子は明らかに外面の良い前者のタイプです。でもそうやって子どもたちは無意識にバランスをとっているのだと思います。

大人もそうですが、子どもたちもそれなりに所属する集団の中で自分自身の立ち位置を必死につくり上げています。

多くの人は複数の所属とそれぞれの立ち位置があるかと思います。職場と家庭のほかサークル活動など。一つ一つが全く接点のない集団であれば、同じ人でも全く異なる立ち位置を獲得している場合もあるでしょう。大変なのは、その集団のいずれかが消滅してしまったり、全く接点のなかつた集団が統合されてしまったりしたときです。この場合は大人ですら自らの立ち位置を調整するのに苦労するかと思います。

今、子どもたちはそれに近い環境に置かれているかもしれません。何となく自分自身の居心地が悪いようです。

でも、きっと学校が始まれば、子どもたちは改めて気付くのでしょうか。学校は教科書の内容を勉強するだけの場所ではなく、自分たちの大切な居場所なんだ。

【バルーンセレモニー】

30周年記念大運動会の中で、子ども一人一人が夢を乗せた風船を空に放す「バルーンセレモニー」を行いました。



学校めぐり



音更町立鈴蘭小学校

■児童数 493名 (25学級) ■教職員数36名

本校は、音更町鈴蘭地区の人口増加に伴い、平成元年に下音更小学校から分離し、新設校としてスタートしました。令和元年度には30周年を迎える、「夢がいっぱい 笑顔かがやく 鈴蘭小学校」をテーマに、11月23日に挙行された開校30周年記念式典をはじめとして、開校30周年記念大運動会や航空写真撮影、テーマ看板の設置など各種協賛事業を行いました。30周年記念事業協賛会の皆様をはじめ、保護者、地域の皆様の御協力のおかげで、いずれの事業も成功裏に終えることができました。



【運動会】

30周年記念大運動会では、PTA競技の玉入れが復活し、保護者、地域の方々も参加し大いに盛り上がりいました。



【テーマ看板】

6学年（卒業生）が考えた30周年記念事業のテーマやオリジナルのロゴマークをデザインした看板を設置しました。



【学習発表会】

30周年記念学習発表会は、歌あり 器楽ありダンスありドラマありパラエティに富み、大いに盛り上りました。



十勝教育研究所 HP



十勝教育研究所



【バルーンセレモニー】

30周年記念大運動会の中で、子ども一人一人が夢を乗せた風船を空に放す「バルーンセレモニー」を行いました。

学校めぐり



音更町立鈴蘭小学校

■児童数 493名 (25学級) ■教職員数36名



【運動会】

30周年記念大運動会では、PTA競技の玉入れが復活し、保護者、地域の方々も参加し大いに盛り上りました。



【テーマ看板】

6学年（卒業生）が考えた30周年記念事業のテーマやオリジナルのロゴマークをデザインした看板を設置しました。



【学習発表会】

30周年記念学習発表会は、歌あり器楽ありダンスありドラマありでバラエティに富み、大いに盛り上りました。



十勝教育研究所 HP



十勝教育研究所